

のぞいてみよう！ せんだいの歴史 ゆかりの絵画編

小池曲江の孔雀図

仙台市博物館 学芸普及室 長澤 伸樹

第7回

今回は、仙台四大画家しだの一人・小池曲江きよこ（二七五八〜一八四七）の作品を紹介します。

曲江の生涯

宝暦八年（二七五八）、塩竈で生まれた曲江は、若くして江戸へ出て、長崎の画家・松林瑤江ようこうに師事し、中国の画家・沈南蘋しんなんぴんを祖とする南蘋派の画法を学びます。

師の没後は故郷へ戻り、五十歳になつてからは諸国を遊歴しながら制作を続け、その生涯で花鳥画や人物画、山水画、仏画など多くの作品を残しました。

曲江が描いた孔雀

曲江の作品には、濃密な色彩で対象を写實的に描く南蘋派の特徴がよく表れています。その技量が特に分かるのが孔雀図でしょう。

古来、子孫繁栄や幸福の象徴として花鳥画の主要な題材とされた孔雀は、江戸時代に見せ物などで広まり、その美しい羽は工芸品にも用いられました。

曲江は南蘋派の持ち味を生かし、先ずける作品を手本としながら、寛政六年

（二七九四）・同十年と、いくつもの孔雀図を手掛け、研さんを重ねていきます。

孔雀図屏風

こうした曲江の孔雀図を代表する作品が、享和三年（二八〇三）の「孔雀図屏風」です。

高さ約一・五メートル、幅約三・二メートルからなる対の屏風で、向かつて右側（右隻）には、海棠かいどうの幹に立ち、垂れ下がった羽を休める雄孔雀（マクジャク）と、仲むつまじいつがいの雌孔雀がみえます。

一方、左隻には華麗な羽を大きく広げる雄孔雀が、大輪の花を咲かせた牡丹ぼたんと並び、雄々しく描かれています。

牡丹と海棠・孔雀の取り合わせもまた、吉祥や富貴を表すとして好まれた画題の一つです。

画面に華やかさを添



孔雀図屏風(享和3年、仙台市博物館蔵) 上段:右隻、下段:左隻

える孔雀はいずれも、その美しい飾り羽まで、緑青や群青などのあざやかな顔料を用い、図鑑さながらの丁寧な筆致で細かく描いています。

対照的に海棠をはじめ、背景を構成する流水や岩は、遠近感や表面の凹凸を、墨の濃淡で表しています。

まるで「静」と「動」を表したかのような構図で、いずれも曲江の観察眼と画力が、大画面にいかんなく発揮された名品と言えるでしょう。

今回紹介した作品の画像は、仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース」(二次元コード)からご覧いただけます。



刊行物のご紹介



「仙台市史」活用資料集vol.2～8

『仙台市史』の中から区ごとの歴史を取りあげ、コンパクトに紹介しています。仙台の歴史をさらに深く知るためのヒントが満載です。

- vol.2 若林区の歴史探し
- vol.3 泉区の歴史探し
- vol.4 宮城野区の歴史探し
- vol.5 太白区の歴史探し-西部-
- vol.6 太白区の歴史探し-東部-
- vol.7 青葉区の歴史探し-西部-
- vol.8 青葉区の歴史探し-東部-

各巻600円(税込)

A4 / オールカラー / 16ページ (vol.8のみ24ページ)

お求めはこちら

仙台市博物館 ミュージアムショップ

【場所】仙台市博物館2階
【営業時間】9:00～16:45
【電話番号】022-226-8319

市政情報センター

【場所】仙台市役所2階
【開館時間】9:00～17:00
(土・日・祝・毎月第4水曜日 休)
【電話番号】022-214-1239



購入方法などの最新情報は、博物館ホームページでご案内いたします

※「vol.1 授業で使える仙台の歴史余話」は完売しました。



【開館時間】9:00～16:45(入館は16:15まで)

【休館日】毎週月曜日(2/24は開館)、2/12(水)、2/25(火)

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074

▶ 博物館ホームページ

仙台市博物館

検索

▶ 博物館X(旧ツイッター)

@sendai_shihaku